

見えないものの 見える化（1）

兵庫県立芦屋特別支援学校
平成30年10月10日(水)
地支セン通信 No. 6

教師側の意図がなかなか伝わりにくい子ども達にとって、見えないものを「見える化」してあげる教育的な手立てが必要です。見えないルールを視覚化し、基準を設けることは子ども達にとって有効な行動の「ヒント」になります。

～人との距離って？～

こんなこと思ったことはありませんか？

「誰にでも抱きつきに行ってしまうんです。」

「家族とはどういう距離を取ればいいの？」

「近寄ってこないけど、嫌われているのかな。」

「先生って自分にとってどの位置にいる人なの？」

「この人、やたら近いな・・・」

そんな時の「見える化」アイテムは！！

「サークルズ」



「パーソナルスペース」



近すぎたり、遠かったり・・・正しい距離感って難しいですね。人との距離感が理解し辛いと、心が動くままに興味のある方へ近づいていきます。人間関係の距離によって、どのような人がどこに位置し、どのような関係や接触を持つのかを視覚的に示しています。自分と他者の境界線を知ること、また、人間関係の親密さの度合いにより触れ合い方が異なることを学びます。

＜45cm以内に近くなった時＞
・「近い！」ではなく、「ストップ(離れて)これくらいの距離ね。何？」と教師がモデルになり示していく。
→叱る行為では情報が入りにくいので、サークルズ、パーソナルスペースを身に付くまで徹底的に使い込み、まだ定着していなかったら再度学習し直し「活用」していく。

